

伊奈かっぺいさん来たる！  
～「言葉の日記」を通して～

いつも「心がけたい」と思うことがある。それは教室での学習が日常生活の中で、あるいは将来生きてはたらくようにしたいということである。そのためには「創意工夫した授業をしたい」と常日頃考える。教師自身に、教科や授業に喜びや発見・感動がなければ、生徒に生き生きとした言語活動は望むべくもないのだから。

さて、なぜかっぺいさんがN中に来ることになったのか？平成2年の秋のことである。1年生の国語の教科書に、杉みき子さんの「あの坂をのぼれば」という教材がある。文中「あれは海鳥だ！」というキーセンテンスで、私は「この記号（！）分かる人？」と質問した。すると4クラス中ただ一人、A子さんが「はい、エクスクラメーションマークです。」とはっきり答えた。私はA子さんを褒め、なぜ覚えているのか聞いた。するとお母さんがかっぺいさんのファンでカセットテープをいっぱい持っている。その中に子どもの話もあり長男を不思議くん（？）長女を麻垂ちゃん（！）と言うのだという。

その後私は、定期テストに『伊奈かっぺいの長男長女の名前を書け。』という問題を作った。それを見たA子さんのお母さん、青森放送のかっぺいさんにそのテストを送ったのだ。以来かっぺいさんとは『言葉の日記』という自主教材を通して、長い交流が続くことになったのである。

当日、『言葉の教室』と題して、かっぺいさんの講演会が行われた。腹の底から笑った後、お礼に全校合唱『大地讃頌』を聴いてもらった。全県の公開研究会を控えていたN中『大地讃頌』の歌声が聴衆の涙をさそったのは言うまでもない。あれからである。N中が『涙と感動ある学校』の階段を一步一步駆け上がっていったのは。そのまっただ中にいた7年間の一コマが、今も鮮やかに蘇る。

さて、「言葉の日記」とはテレビ・新聞・会話・授業などから、発見したこと考えたこと、調べたことなどを綴るものである。

【その1】つい先日、Sさんと友達へのプレゼントを買いに大町へ行った時のことである。昼食にしようということになってお店に入った。Sさんが「これにしたいんだばって何て読むんだ？」と聞いてきた。ドキッ、私もわからない。そこで「かいろうピラフください」って言ってしまったのだ。レジの人は笑いをこらえて「えびピラフじゃないですか」と言った。Sさんは「ハイそれです。すみません」と答えたのだ。そこでこんな二の舞はもう演じたくないの、動物を漢字で表してみた。①秋刀魚②鱒・・・②河豚みなさんも私とSさんのような恥をかかないように、しっかり覚えましょう。①さんま②はたはた・・・②ふぐ

【その2】1月8日の夜のことである。新聞のテレビ番組のところを見ていたら、7時半から時代劇スペシャル「森の石松・寿司食いね工！ご存じ暴れん坊一代」中村勘九郎主演とあったので「ちょっと見てみるか」と思って見ていたら、兄役「お前その片目もう開かねんだろう。」勘九郎「そうさ。でも、こういうのことわざで、呉越同舟って言うんだ」・・・えっ？確か呉越同舟ってというのは、ことわざではなくて、故事成語ではなかったっけ？

ちょっとちょっと～ことわざだって、故事成語じゃないんですか。それにしても監督も気がつかなかったのかなあ。テレビにだって間違いはある。

生徒の作品を配布し、その発見・感動をみんなで共有する。これを続けると生徒は言葉に敏感に反応し、進んで調べ学習を行い、疑問点を解決しようとする。今日はどんな文章に出会えるのか、毎日が楽しかった。数千点にのぼるこの「言葉の日記」は、いつの日か本にしたいというのが夢である。